

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度 技術情報第9号
(コブノメイガに対するクロラントラニリプロールを含む箱粒剤の効果) について (送付)

コブノメイガに対するクロラントラニリプロールを含む箱粒剤の効果について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (www.jppn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。



令和5年度 技術情報第9号

普通期水稻でコブノメイガに対してクロラントラニリプロールを含む箱粒剤による被害抑制効果の低下した事例が認められています。このようなほ場では、今後、被害の拡大する恐れがあります。そのため、ほ場を見回り、被害葉が散見されたら、下記の項目5、6を参考に適切に防除を実施してください。

1 対象病害虫 コブノメイガ

2 発生状況等

(1) 7月12日～19日の定点ほ場調査 (29地点58ほ場) において発生ほ場率6% (平年21%) で発生程度はやや少ない。

3 ほ場試験の概要および結果

(1) 供試薬剤

商品名	成分	RAC コード	系統名
フェルテラゼクサロン箱粒剤	クロラントラニリプロール	28	ジアミド系
	トリフルメゾピリム	4E	メソイオン系

(2) 結果

フェルテラゼクサロン箱粒剤の防除価 (被害葉率) は、R5年 (移植43日後) が21.4, R4年 (移植49日後) が65.9で、被害抑制効果の低下が2年連続で認められる (表1)。

表1 コブノメイガに対するフェルテラゼクサロン箱粒剤の効果の比較

供試薬剤	処理量		R5年7月19日(移植43日後)			R4年7月20日(移植49日後)		
	処理時期	処理方法	調査 葉数	被害 葉数	被害 葉率	調査 葉数	被害 葉数	被害 葉率
	フェルテラゼクサロン箱粒剤	50g/箱 移植当日 育苗箱施用	3区合計 防除価	10,140	78	0.77	11,650	39
無処理		3区合計	9,300	91	0.98	12,400	120	0.97

注1) 試験場所：農業開発総合センター内水田 品種R5年ヒノヒカリ，R4年あきほなみ

注2) 試験実施機関：農業開発総合センター病理昆虫研究室

注3) 試験方法：R5年6月6日移植当日に供試薬剤を育苗箱に施用した。移植43日後の7月19日に1区約3300葉（3反復）の被害調査を行った。

R4年6月1日移植当日に供試薬剤を育苗箱に施用した。移植49日後の7月20日に1区約4000葉（3反復）の被害調査を行った。

5 防除対策及び防除上注意すべき事項

- (1) 7月10日の飛来に由来する第1世代成虫の発蛾最盛日は8月10日頃と予測される（図1）。粒剤による防除は発蛾最盛日，粉剤または液剤による防除は発蛾最盛日の3日後と10日後に行う。
- (2) 止葉を含む上位3葉への被害は収量・品質に影響するので，今後の蛾の発生が多い場合は第2世代幼虫を対象に防除を行う。

6 参考

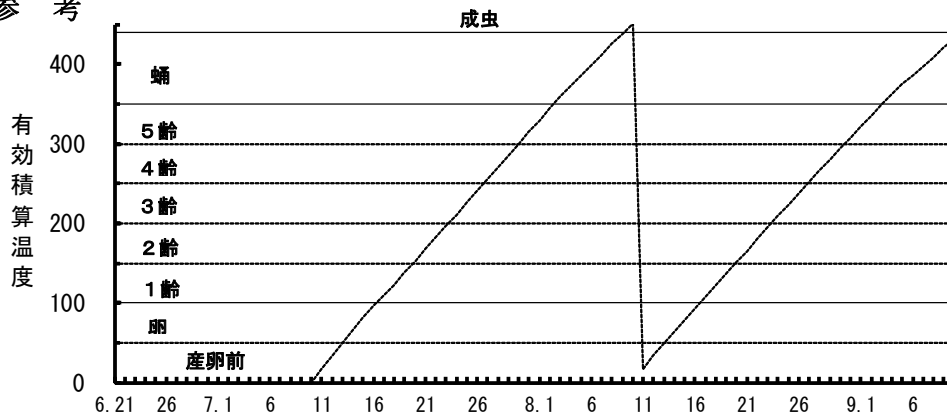


図1 コブノメイガの有効積算温度による発生経過予測図

注) 気温は，加世田のアメダスポイントデータを利用した（7/20まで実測値，それ以降は平年値）。
なお，気温の低い地域では予測より2～4日程度遅くなる。



図2 コブノメイガの被害